

令和5年度

山梨における 教員育成推進事業 成果パンフレット

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会
－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－

初任者研修等における
山梨大学教育学部教員の派遣

Index

教育学部長挨拶 p.1

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 pp.2～3

初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣 p.4

令和6年4月 山梨大学教育学部



山梨大学 教育学部長
服部 一秀

山梨大学教育学部は、山梨県教育委員会・山梨県総合教育センターとの連携協力のもと、教員養成と現職教員研修の充実をめざして様々な取組を進めてきております。本パンフレットでは、その一環として令和5年度に実施しました2つの教員育成推進事業について報告します。

その1つは、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－」です。山梨県総合教育センターとの共催により、OPPAに関する研修会を甲府市南公民館、富士・東部教育事務所の2会場で開催しました。

もう1つは、「初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣」です。山梨県教育委員会・市町村教育委員会による小学校・中学校・高等学校での初任者研修等の28件の研究授業に本学部の教員を指導・助言者として派遣しました。

何れにつきましても、大変なご好評をいただきましたが、安住することなく事業の一層の改善につとめていきたいと考えております。本学部はこれからも地域に根ざした教員育成を推進してまいります。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会

— OPPシートによる学習・指導と評価の一体化 —



事業概要

OUTLINE

山梨県総合教育センターとの共催により「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—」を開催しました。

本研修は、学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA（1枚ポートフォリオ評価）についての研修会です。

昨年度は「基礎研修会」と「応用研修会」の二部構成で行いましたが、本年度は演習・グループワークに十分時間をとり、初めての方も経験者も共に研修を深めることのできる一部構成で実施しました。

峡中会場

令和5年8月8日（火）甲府市南公民館

富士・東部会場

令和5年8月9日（水）富士・東部教育事務所

講師

堀 哲夫

（元山梨大学理事・副学長）

辻本 昭彦

（法政大学生命科学部生命機能学科 准教授）



グループでのワークショップ

多くの先生方が参加

本研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知すると共に、各地区の教育事務所にもご協力いただきました。本年度は、感染症法上の扱いが5類相当になったことを受け、感染症対策を行いながらも通常の形で実施することができ、多くの方に参加していただきました。

わかりやすく楽しい
研修会でした！



内容

CONTENTS

研修会の前半の理論編では、堀先生からはOPPシートのねらいや作成に必要な構成要素などについてのお話に加え、OPPAと教育の本質との関わり・本質にどう迫るか、OPPシートのデザイン等についてご講義がありました。

後半の実践編では辻本先生からアイスブレイキングとして初公開となる双六トークから始まり、OPPシートを短時間で記号を使った見取り方とコメントの書き方についてのワークショップ、主体的に取り組む態度の評価とOPPシートの関連についてのレクチャーがありました。

◆ 受講者

研修会 61名

小学校 25名、中学校 12名、高校 15名、
支援学校 5名、その他（行政等 4名）



堀 哲夫 講師



辻本 昭彦 講師

OPPA とは？

OPPA とは、One Page Portfolio Assessment の略で、「一枚ポートフォリオ評価法」と呼ばれるものです。学習者が一枚のシート（OPPシート）の中に学習の成果を学習履歴として記録し、学習の全体を学習者自身に自己評価させる方法です。シートは、次の部分に分かれています。

- ① 単元開始前と終了後に記入する「本質的な問い」
（教師がこの単元を通して最もつかませたい内容を問いの形で示したもの）
- ② 授業の中で学習者が一番大事だと思ったことや自分が考えた授業のタイトルなどを授業ごとに記入する部分

OPPA の特徴は、次のように子どもの成長と教師の成長とを繋げるところにあります。

- ◆ 学習者にとっては、自分の学習の成果を振り返り、自分の成長をつかむことができるもの
- ◆ 教師にとっては、一人一人の子どもの学びの状況を把握し、毎回の授業を振り返り、授業の改善につなげることができるもの



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

研修会で各自が記入したOPPシートによると、多くの参加者が自分の授業に対する考え方が変容したり、評価方法を工夫する必要性を感じたりしたことで、今後取り組みたいことが明確になったと記述していました

◆ 研修会での OPP シートより

辻本先生が授業の中で子供の声を大切にしているところが心に残りました。教師が子供に与えるだけでなく、子供から引き出すことが大切だと思います。さらに ICT 活用で子供の学びを保存していけば 6 年間また 3 年間の成長の過程が可視化できると思います。(20 年目の先生より)

OPPA を毎時間の授業で使えたら良いのだが、なかなかそうもいかない。大切だと言うことがわかっていてもそれを実現できないと意味は無い。何とか今回の学びを活かして価値ある授業を展開していきたい。辻本先生が紹介されていた仕方なら、毎回の授業に使えそうだった。(24 年目の先生より)

OPPA は学習記録と言う意味合いで考えていた。実際に授業で取り入れているが上手に活用できていなかった。自己肯定感の低い子供たちが多く、何事も意欲があまりない生徒に対して OPPA を取り入れ、前向きにチャレンジできる生徒を増やしていきたい。(15 年目の先生より)

受講中は、自分のクラスの子供たちの姿を思い出ししながら、具体的な姿や場面をイメージしていました。目の前の子供の姿から授業を作ること、単に面白いだけでなく、考える場面を設定する授業を考えなければいけないこと、当たり前のことですが、その大切さを学び直しました。(20 年目の先生より)

◆ 山梨県総合教育センターの事後アンケートより

OPPA に関する概要と実践事例を学ぶとともに、グループワークをとおして体験的に学ぶことができた。OPPA を活用することで、授業改善・学習改善を手軽に行うことができ、教員にとっては授業づくり、児童生徒にとっては資質能力の向上を継続的にできることを再認識した。OPPA に基づいた授業づくりを進めるなかで、多様な考え方に触れ、合意形成を図る授業が実現できることを学んだ。

以前私自身も一枚ポートフォリオを活用した授業実践を行った。やはりその時の子ども達の反応は、回を重ねる毎に授業に入り込んできたことを実感した。今回 OPPA が授業改善につながり、学びに向かう力の評価にも活用できるのではないかと実感できた。グループワークを通して効果を体感でき、今後に活かせると感じた。これからの教育活動の有意義な財産になることと思いました。

昨年度も参加したが、昨年度とはまた違った視点をもっている中での参加なので、新たな学びがありました。時間もたっぷりあり、意見交流することもでき、学びを深められたと思います。辻本先生のアイスブレイクは、研修会や校内研修、学級経営にも役立ち、とても参考になりました。とても充実していますし、授業改善にもつながるご講義なので、多くの人に知っていただきたいです。

本研修では、OPP を使った評価について作成した堀先生に理論や仕組みを、実際の使用演習を辻村先生にご教授いただいたことで、自分の中ではとても腑に落ちたところが多かった。これまで振り返りシートを活用してきたが、本研修で学んだことを自分の振り返りシートにも反映させ、さらに進化させていきたい。

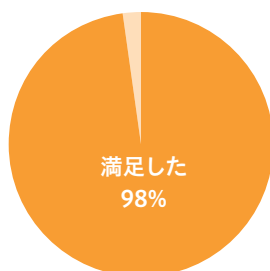
様々な校種の先生方とのグループワークを通して、自分自身の課題に気づき、今後の授業実践に大変役に立つものとなりました。ワークシートも OPP シートの形式になっており、生徒がどのような思いでこのシートに向き合っているのかということも理解することができました。充実した研修となりました。

すべての学年の授業で活用することは難しさを感じるので、自分の担当学年の授業から OPP シートによる生徒の学習改善、自分自身の授業改善に取り組んでいきたい。その際、以前 Teams を使った授業実践についての研修を受講したので、紙による OPP ではなく、デジタルデータでの作成や提出がうまくできないか模索していきたい。

OPP シートの活用方法がよくわかりました。今回の研修で子どもの本音を引き出すために大切なことを理解出来たので、授業以外でも活用できそうだと感じました。ワークショップ形式での研修でより、内容がわかりとても楽しく学べました。

体験的な活動もあり、生徒の立場になって OPP シートについて学べたので良かった。これまで、学習の記録としての意味合いが強いものだと思っていたが、生徒にとって自己の学習を価値づけたり、教師が授業改善につなげられるものだと思えることができました。

OPPA については知ってはいたものの、具体的な活用方法や評価方法についての知識が乏しく、活用していませんでした。しかし、本研修を通して、OPPA の基本的な評価方法等について学ぶことができ、知見が広がりました。



◆ 総合教育センターの研修会アンケートより

Q. 研修会は役立つ内容であったか

満足した 98%
 どちらでもない 2%
 満足しなかった 0%

本研修会を通して、評価の本質についてとらえなおし、授業に対する考え方が変容した教員が多かったです。また、研修後に実際に事業等でOPPシートが活用されたことは、大きな成果と考えます。

本年度は経験した方も初めての方も研修を深めていける内容とし、基礎、応用と分けずに実施しました。また、実際の授業に活用できる研修となるよう、実践編の時間を多くとりました。今後、さらに内容を充実させOPPAへの理解を深めるとともに、OPPシートの活用を広めていくことで、多くの教員の授業力向上に役立てていただけるような研修にしていきたいです。令和6年度も総合教育センターの外部研修としては、8月8日、9日に実施する予定です。



初任者研修等における 山梨大学教育学部教員の派遣



事業概要

OUTLINE

山梨県教育委員会との連携のもと、山梨県教育委員会・市町村教育委員会が拠点校等で行っている初任者研修へ本学部の教員を指導・助言者として派遣する事業を、県内4教育事務所・山梨県総合教育センターの全面的な協力を得て、次の通りを行ないました。

派遣期間・回数

令和5年9月1日(金)～令和6年1月31日(水) 計28回

派遣人数

延べ28人

派遣校種

小学校 13校 中学校 10校 高等学校 5校

内 容

「初任者による研究授業」の参観とその後の「授業研究会」での指導・助言
(小学校:国2・算数8・道徳3

中学校:国語2・数学2・理科2・社会1・英語1・体育2 高等学校:国語1・数学1・英語1・地歴公民1・家庭科1)



初任者の声

指導案の作成・ご指導にここまで時間をかけたことがなかったので、とても充実していました。今後道徳の授業を作っていくうえで大変勉強になりました。特に「学級指導」と「道徳科」、児童にゆさぶりを与える発問と問い返しについて、次回から念頭において教材研究をしたいと思いました。

毎日が忙しく、自分の授業の振り返りをする時間をあまり取れませんでした。こういった機会をいただけたことで、改めて教材や自分自身としっかりと向き合う時間を取ることができました。今回学んだことをこれから活かしていきたいと思います。ありがとうございました。頑張ります。

授業において、根拠と理由の違いを明確にして、自分の意見を表現することが重要だと感じました。今回のお話を聞いて、生徒が自分の意見をより分かりやすく伝えるために、根拠だけでなく、理由づけも大切にすることを教えていきたいと思います。

授業の探究過程における、考察の書き方指導について教えていただいた。「結果から分かったこと」や「仮説が検証できたかどうか」というポイントに絞って考えさせ、書かせることで正しい考察の書き方を学ばせることができたと知った。考察指導には悩んでいたもので、さっそく授業に取り組んでいきたい。

教科の本質を重視した授業でしか育めない、生徒の主体性や思考力などの大事な要素があるなど感じました。何より今日の授業を通して、自分はそのような授業がしたい、生徒と共に探究したい、そのための教材研究は凄く楽しい、と感じていることを改めて認識できました。

先生とお話の中で、授業づくりや理論的な部分についてもっと聞いてみたい、議論したいという思いが強く湧き出てきました。学生時代はあったこの感覚、忘れていたな、と感じました。とても勉強になりましたし、とても楽しかったです。

派遣教員の声

初任者研でのアドバイスは大変気を遣いますが、どのようなアドバイスをするかが、その人にとってプラスになっていくのか(即時的なこと、時間をかけて解決していくべきこと)を考え、アドバイスすることが、初任者研においては自身を鍛えることに繋がっていると感じています。

校長先生をはじめ小学校の先生、拠点校の先生、指導主事の先生全員が初任者を温かく見守り、時には具体的に指導助言をしながら、初任者の先生を大事に育てていること、初任者の先生が一生懸命それに応えようとしていることが伝わってきました。

小学校の道徳の授業に参加させていただいているが、学級づくりのあり方が授業に反映していることを実感する。毎回、新任者の熱意が児童に伝わっていることが感じられ、大変うれしく思っている。

初任者は本学の卒業生であり、私のゼミ生であったので、今回初任者研修の授業研究会に行かせていただき、卒業後の教員での様子を見ることができ大変よかったです。来年度も引き続き本事業を行うことができたいと思います。



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

大学教員が学校に出向き、従来とは違う視点からの指導・助言をすることで、研修をより深める一助になったと思います。また、派遣された教員にとっても、学校の様子を知る良い機会であり、今後の教員養成にも資するものと考えます。

今後、大学教員のより良い関わり方について、アンケート等を参考にしながら、さらに研究を進め、事業の充実を図ってまいります。

お問い合わせ先

山梨大学教育学域支援課

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
TEL.055-220-8102 FAX.055-220-8791



教育学部
イメージキャラクター
梨子ちゃんとお福くん